

授業参観+ワークショップ参加型+在宅取組型(中学校)

学校名等	多治見市立多治見中学校
実施日時	令和7年10月24日(木) 13:50~14:40
会場	多治見中学校 武道場
参加人数	2年生生徒153名とその保護者76名
学習課題(分野)	防災ワークショップ「中学生だからできる防災」
運営者の願い	多治見中学校では、毎年「多中教育の日・授業参観」を実施しています。今年度、中学2年生の生徒を対象とした「防災ワークショップ」を実施しました。この活動で、生徒同士・保護者が、身近な危険個所について考え、実際にその危険個所を観察してくるなどの活動を通して、学校と家庭が協力して防災の意識を高めることを願い実施しました。

学習の内容

<防災ワークショップ協力者>

講師 名古屋工業大学 兼田研究室 学生  
 顧問 清流の国ぎふ防災・減災センター (防災士)、多治見市防災士、  
 名古屋工業大学 社会工学科 教授、北海道立総合研究機構 研究員

<授業の様子>



・名工大の学部生が授業者として登壇し、たいへん真摯に授業を行いました。  
 ・顧問の皆さんは防災のエキスパートとして授業づくりに関わって見えました。

<主な学習内容>

- 1) なぜ防災について考えるべきなのか
- 2) 災害の種類から多治見市の災害を考える
  - 多治見市の地形から
  - 浸水した多治見中学校の廊下
- 3) 土砂災害とハザードマップ
- 4) 危険個所を見つけよう
- 5) 防災マップづくり
- 6) 今後の学習の見通しについて



グループで検討した防災マップについて発表する

<参加者の感想>

【保護者の感想】

・子ども達が、自分たちで積極的にやっていたので、脇で見たいようと思ったのですが、一緒にやってしまいました。防災については、関心があったので、しっかりと関わってしまいました(笑)。家でも身近な危険個所について、話し合ってみます。

【生徒の感想】

・身近なところの危険が、意外と多かったと思います。実際に地図にシールを貼って、そう感じました。  
 ・友だちと相談しながら、危険なところを考えました。水まわりのところが危ないとわかりました。



専門家との交流

中学生の学びを支援するために、大学で専門に学ぶスタッフや、未来をになう学生らの協力で授業が展開されました。専門家の知見が活かされたワークショップでした。



学校・家庭・地域連携

「学校…『総合的な学習の時間』の学び、地域…自助・公助・共助の防災活動、家庭…家族の命を守る動きづくり」と、防災の取組は、学校、地域、家庭のそれぞれに関わる問題で、課題意識を共有しやすい。

家庭教育学級としても、保護者(参加者)の学ぶ意識が高かった。



中学生への期待

参観された学校運営協議会の方もこの授業に注目していた。「地域において中学生の力を借りたいのは、実際に避難所の設営のときです。地域をよく知っている彼らの力に期待しています。」とお話されていた。

